

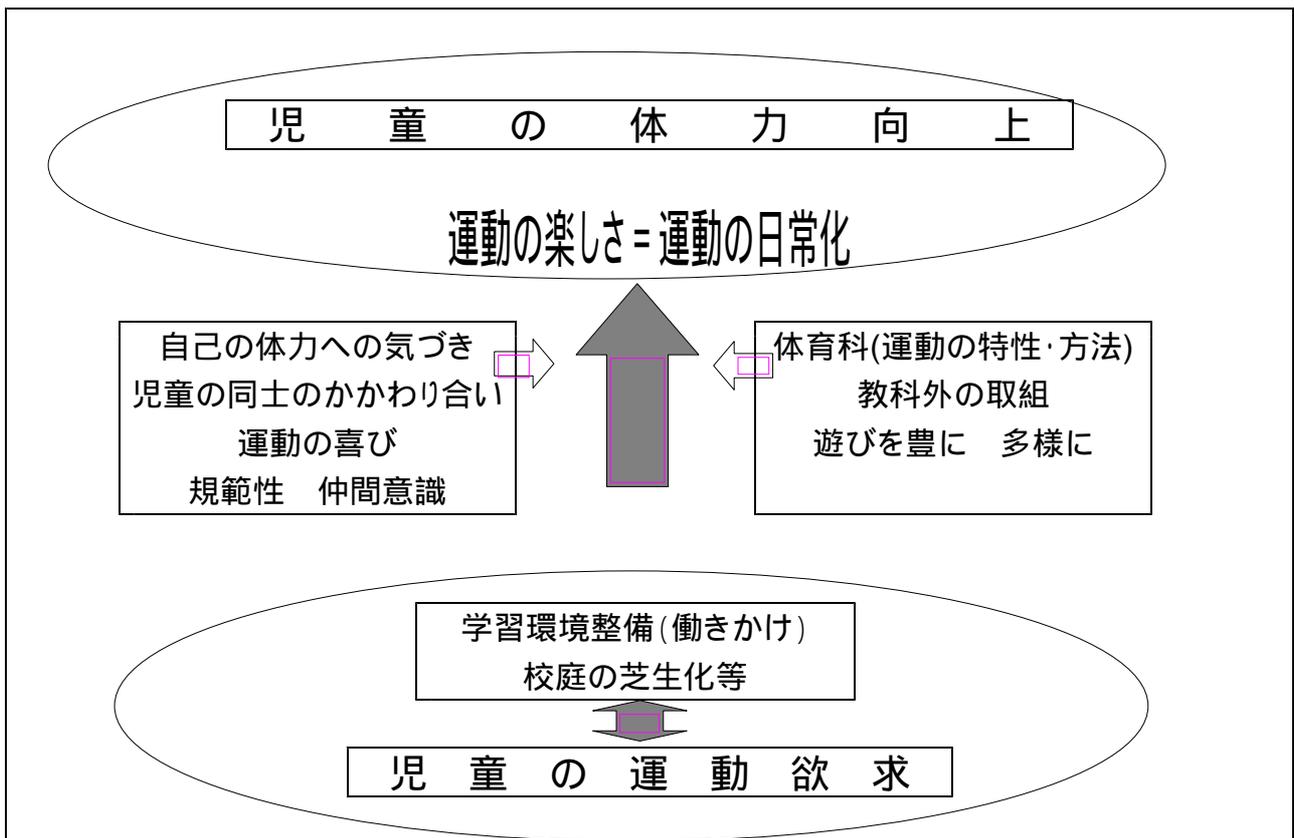
広島市立安西小学校 校庭芝生化計画

学校としての教育活動の視点から

芝生の上を友達と走り回って遊ぶ子どもたち、校庭いっぱいに様々な遊びが広がる。運動する喜び、友達と遊ぶ楽しさを体感する子どもたち。

体育科の授業においても、芝生である安心感が、子どもたちの動きの幅を大きくし、やがて自分の体力や運動能力の伸びに気づく。自分の可能性をさらに広げようと、できなかったことができるように、できることをさらにより上手くできるようにしようとする子どもたち……

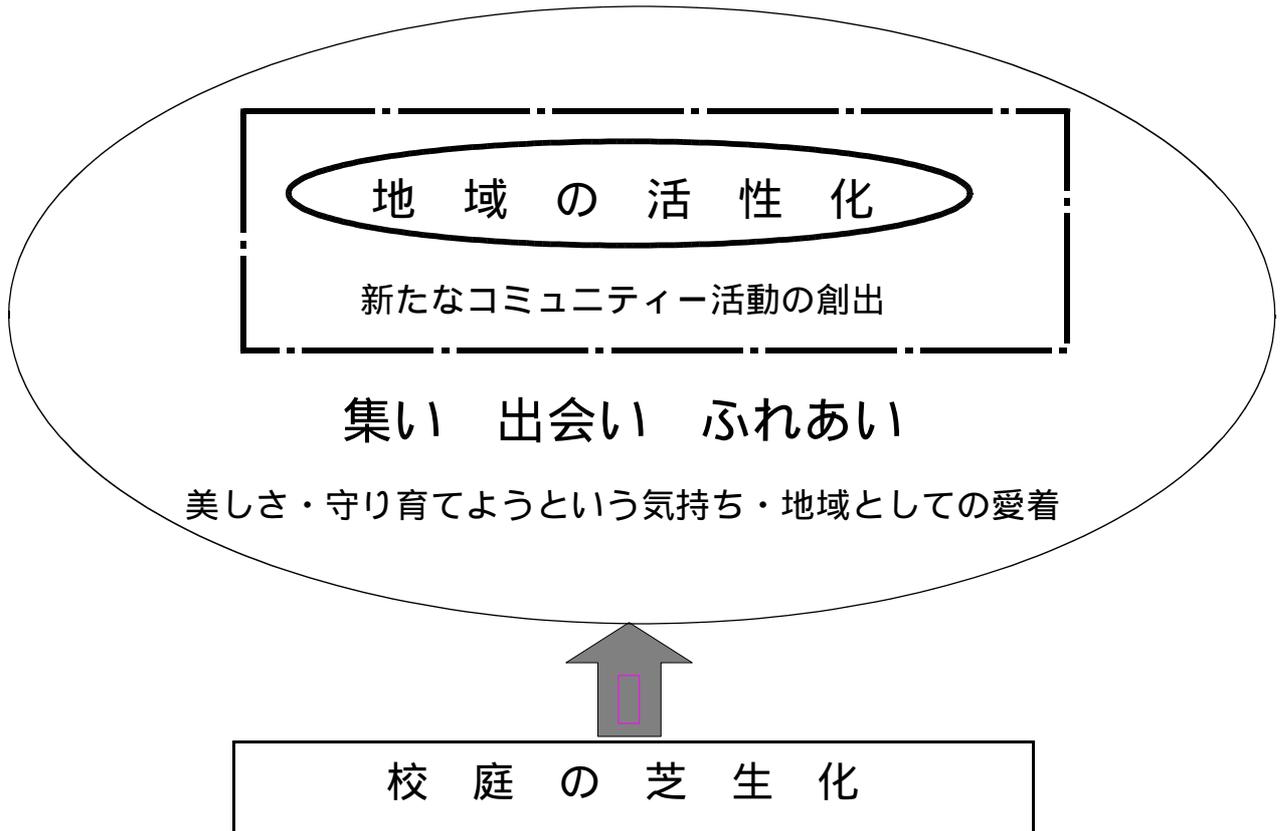
「豊かなかかわり合いを通して、
自分にあつためあてを考え、
意欲的に学ぶ子どもの育成」



～ コミュニティー活動の拠点としての学校の可能性を広げる～

地域のコミュニティ活動の視点から

芝生の美しさ、芝生を守り育てようという気持ちが、われわれの学校という意識を高め、新たなコミュニティ活動の拠点としての学校の可能性を広げる。そして、地域の方々が集い、出会い、ふれあう姿があふれる場所に…………



1 学校・児童・地域の状況

学校では、これまで、体力づくりを重要な取組の1つとして、大休憩の業間運動の実施、体育科授業でのサーキットトレーニングの考案、学級での長縄跳びランキングへの挑戦、年2回の体力テストの実施、的当てや遊具の改修による環境整備、その他にカードや体力アップハンドブックを活用した取組を行ってきた。その結果、改善されつつある状況である。しかし、数値においては、依然として課題が多い。昨年度の体力テストの結果を一昨年度の全国の結果と比べると、全種目96種目のうち約6割の種目で、その平均を下回っている。また、正規分布しておらず二極化が顕著である。数値のうえからも、体力向上への取組が急務となっている。また、大休憩や昼休憩の遊びの様子からは、遊んでいる児童数の割合が、平均すると3～4割程度であること。その遊びの種類も少ないこと。等が挙げられる。課外において、運動系の活動を行っている児童の割合は、2割程度である。

このような実態から、学校においては、「体力づくり」を学校教育目標の重点課題として位置づけ、さらに体力向上を推進するために、これまでの外からの働きかけによる体力向上の取組を、児童の意欲と関心による自発的な内からの取組にしたいと考えている。そして、自らの体力に関心を持ち、主体的に運動に親しむような実践を進めたいと考えている。

学校に対して、地域は協力的である。見守り活動やゲストティーチャーとして、学校を支援してくださっ

ている。また、学校協力者会議においては、子どもたちの状況に強く関心を持っておられることがよく分かる。社会福祉協議会等の地域諸団体においても、学校への関心が高くその期待も大きい。

2 校庭芝生化のメリット及びデメリット

= 地域に関すること

メリット

児童の体力向上
外遊びの意欲の向上
外遊びの多様化
土より安全でケガの減少
夏場などはその緑化効果により温度調整の役割(地面から1m付近で3度のマイナス効果)
芝生化することにより土に比べて砂ほこりなどの近隣に及んでしまう汚れを防げる
外観の美しさ
雨天後の校庭使用が短時間で可能に
地域の集いの場所としての新たな可能性

デメリット

維持管理に係る作業・費用

- ・ 作業 = 刈り込み 施肥 散水
- ・ 費用 = 芝刈り機のメンテナンスの費用 肥料 水道料金

3 小学校におけるメリットを活かした体力づくり等の推進

小学校において、次のような内容例について、数値目標等を設定して取組を行う。

児童の体力向上に関すること
児童の体力に関する意識を高めること
体力向上に向けた環境整備に関すること
よりよい環境を守っていこうとする気持ちの醸成に関すること
母校への愛着を高めることに関すること

4 取組に対する具体的な評価指標

(1) 意識的側面(アンケート調査)

運動に関する趣向・自己の体力等に関する意識調査を実施する。

平成22年度(11月)における目標値 1回目を6月に実施

肯定的評価を行う児童の割合(7項目の合計)を6月調査の30%増とする。

日常生活におけるストレスなど精神面についての意識調査を実施する。

平成22年度(11月)における目標値 1回目を6月に実施

肯定的評価を行う児童の割合(11項目の合計)を6月調査の30%増とする。

(2) 体力テストの数値的側面

体力テストの数値を4年間について追跡調査を行う。

平成23年度における目標値 全項目のうち5割で全国平均と同じか上回る

平成24年度における目標値 全項目のうち6割で全国平均と同じか上回る

平成25年度における目標値 全項目のうち7割で全国平均と同じか上回る

* 21年度は、同じか上回ったのが4割

(3) 児童の行動観察・生活様式の側面

休憩時間や学校外での運動や生活に関する行動観察や放課後の生活調査を行う。

平成22年度(10～12月)における目標値

- ・ 大休憩や昼休憩に外遊びをする児童の割合が全児童の9割以上となるようにする。
- ・ 大休憩や昼休憩について遊びの多様化を目指し、児童の行う遊びの種類を50%増とする。
- ・ 放課後の生活について、運動の状況や生活リズムの改善に関するアンケート調査を保護者と児童を対象に行い、肯定的評価を行う保護者・児童の割合を本年度調査の30%増とする。

(4) 体育科授業改善の側面

グラウンドを使用する体育科授業について、児童による授業の振り返りを行う。

平成22年度における目標値

肯定的評価を行う児童の割合を、全児童の80%以上とする。